資　料　2

具体的な日本語教育プログラムの作成手順（案）

1　域内の外国人の状況・ニーズ，地域のリソース等の把握

（1）対象とする学習者の属性や数の把握

・レディネス，漢字圏かどうか，学習適性，家族形態，在留資格等

（2）生活課題の把握

（3）地域のリソースの把握

地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫

2　日本語教室の目的や設置場所等についての検討

（1）日本語教室の目的を設定

（2）学習者のニーズ，地域のリソースに基づいた教室の設置

①地域課題，域内の外国人の状況に対応した日本語教室の設置
②行政・関係機関との連絡調整

3　具体的な日本語教育プログラムの作成

（1）学習内容について検討

・取り上げる生活上の行為の選択
・地域の実情・学習者の日本語のレベルに合わせて工夫

地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫

（2）学習順序について検討

・学習者の生活課題・ニーズから学習順序を設定

（3）学習時間について検討

・学習内容に掛かる時間を想定し，設定

専門家・地域住民との協働

（4）指導者・協力者について検討

・協力者との協力体制について検討

対話による相互理解の促進

（5）活動方法について検討

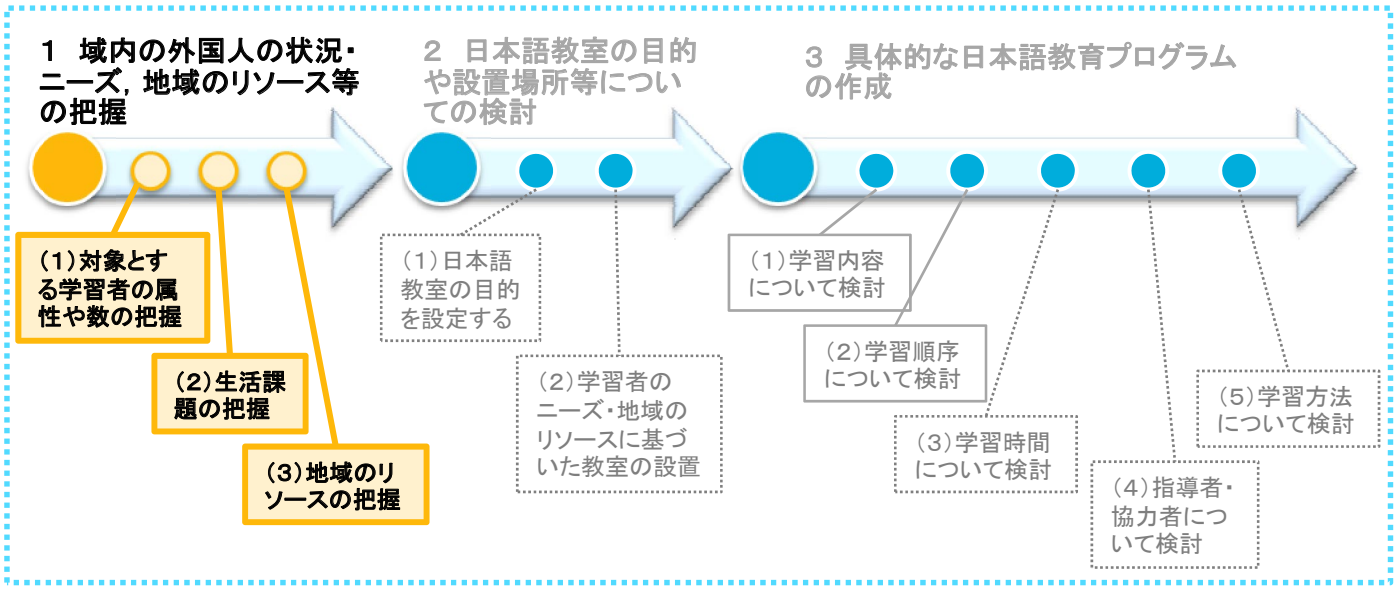
①目標達成のための教室活動の方法
②教材
③評価について検討

行動・体験中心の教室活動

プログラムの見直し

各地域の実情に応じた日本語教育の実施

1　域内の外国人の状況・ニーズ，地域のリソース等の把握



(1)対象とする学習者の属性や数の把握

○レディネス（日本語学習をどの程度行っているか）

○漢字圏かどうか

○学習適性（過去の言語学習経験等）

○家族形態

○在留資格

○定住志向

(2)生活課題の把握

○日常の生活（使用言語と使用場面，日本語でのやり取りが求められる場面，日本語学習に割ける時間）

○生活面で課題として抱えていること
・今，できるようになりたいこと
・できれば，できるようになりたいこと
・今後，できるようになりたいこと

※「切迫度が高いこと」や「できるようになりたいこと」のリストを作成し，順に並べる

(3)地域のリソースの把握

○教室に使える場所

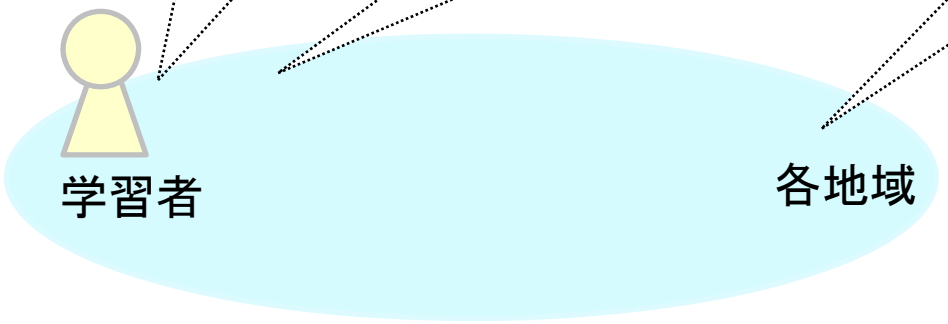
○指導者

○協力者の有無

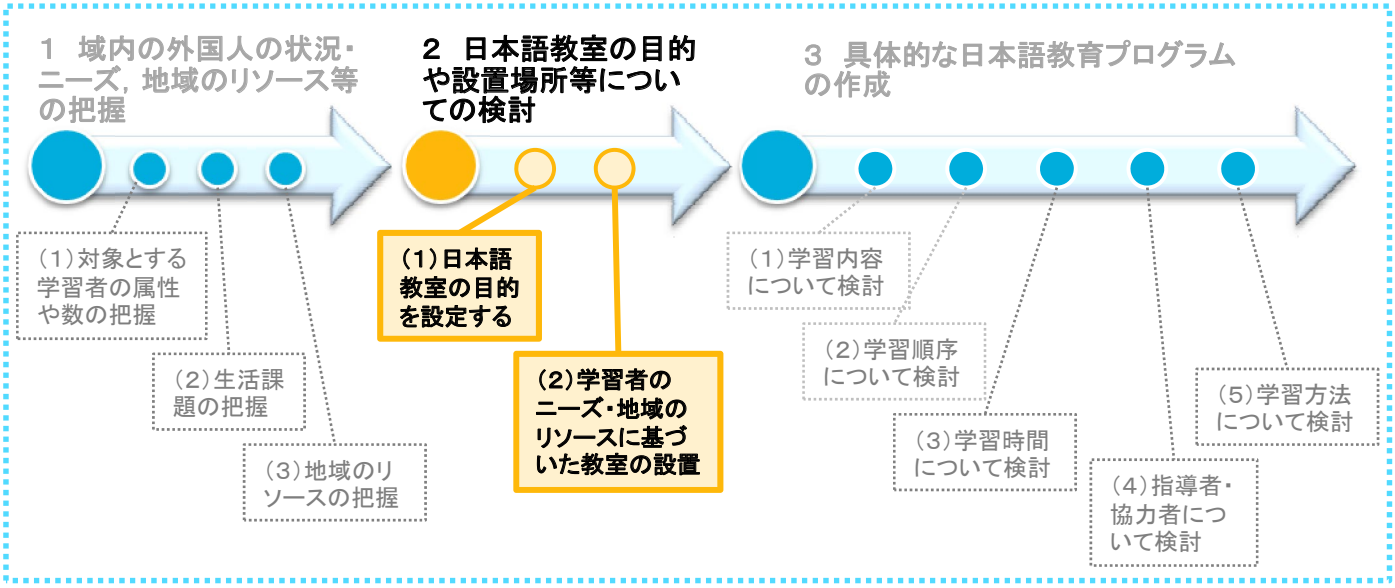
○協力機関の有無

○多言語での情報の有無

○通訳が配置されている場面



2　日本語教室の目的や設置場所等についての検討



（1）日本語教室の目的を設定

○漠然とした学習者像ではなく，地域に在住する外国人の状況を踏まえた上で「具体的な学習者像」を設定し，そこから生活課題の改善に向けた教室の目的を設定する。

（2）学習者のニーズ・地域のリソースに基づいた教室の設置

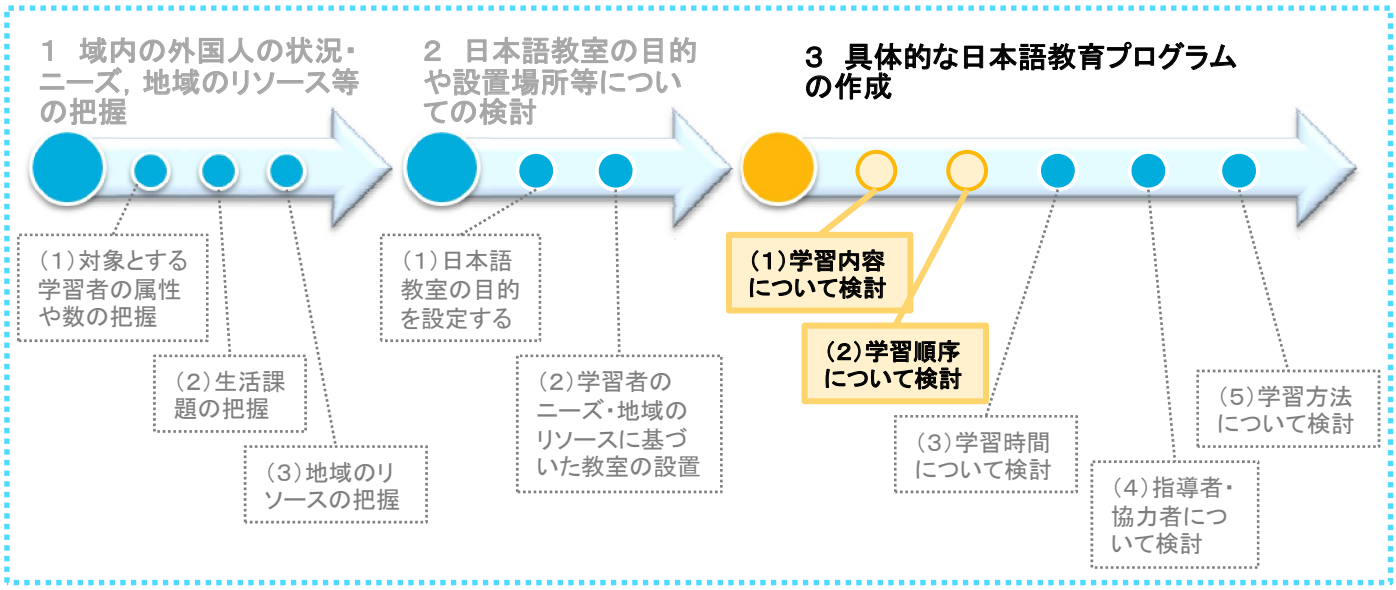
①地域課題，域内の外国人の状況に対応した日本語教室の設置（場所，日時等）

例１：日系人就労者
→土日や平日夜間，受入企業と連携した日本語教室…等

例２：国際結婚女性
→平日昼間，保育を同時開催，子連れでも来やすい雰囲気を作る…等

②行政・関係機関との連絡調整

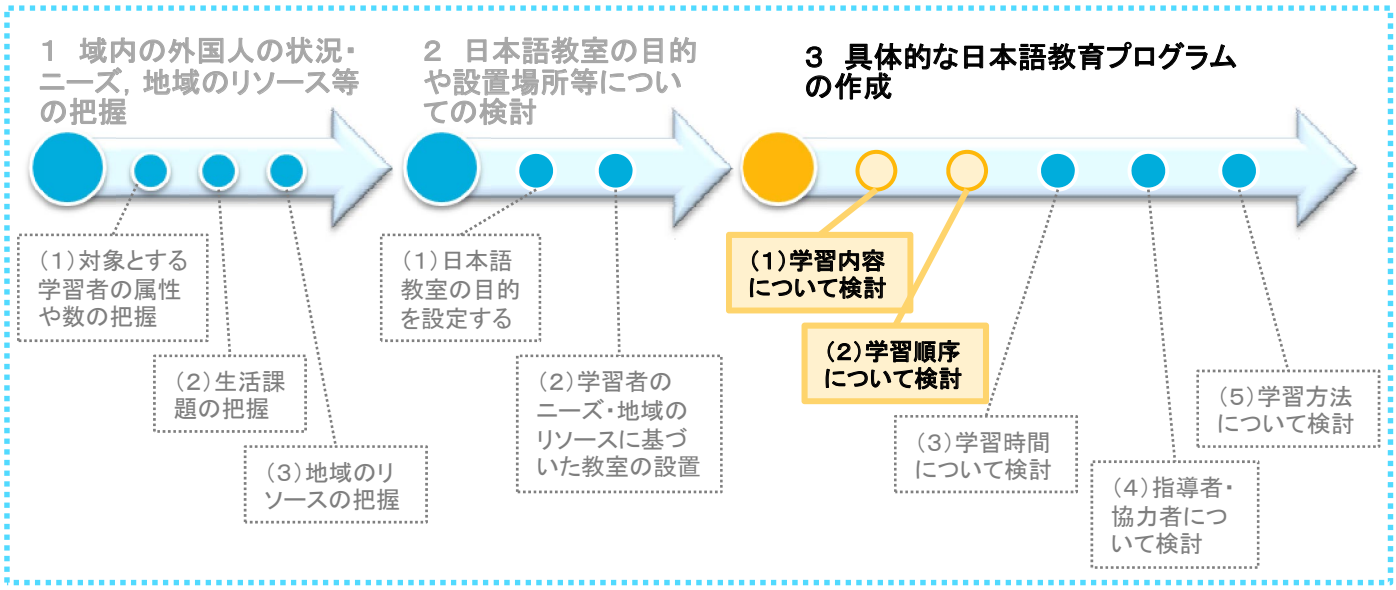
3　具体的な日本語教育プログラムの作成①



（1）学習内容について検討

	生活課題	できるようになりたいこと
1	切迫度の高いこと	生活ルールや地域の集まりについて知りたい
2	今できるようになりたいこと	住民としての手続ができるようになりたい
3	できればできるようになりたいこと	行動範囲を広げ，知り合い・友達を増やしたい
4	今後できるようになりたいこと	仕事で使う専門的な日本語を知りたい

標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為（全30単位）
Ⅰ　健康・安全に暮らす（7単位） 01 健康を保つ　02 安全を守る
Ⅱ　住居を確保する・維持する（2単位） 03 住居を確保する　04 住環境を整える
Ⅲ　消費活動を行う（4．5単位） 05 物品購入・サービスを利用する 06 お金を管理する
Ⅳ　目的地に移動する（3．5単位） 07 公共交通機関を利用する 08 自力で移動する
Ⅶ　人とかかわる（2．5単位） 14 他者との関係を円滑にする
Ⅷ　社会の一員となる（4．5単位） 15 地域・社会のルール・マナーを守る 16 地域社会に参加する
Ⅸ　自身を豊かにする（2単位） 20 余暇を楽しむ
Ⅹ　情報を収集・発信する（4単位） 21 通信する 22 マスメディアを利用する



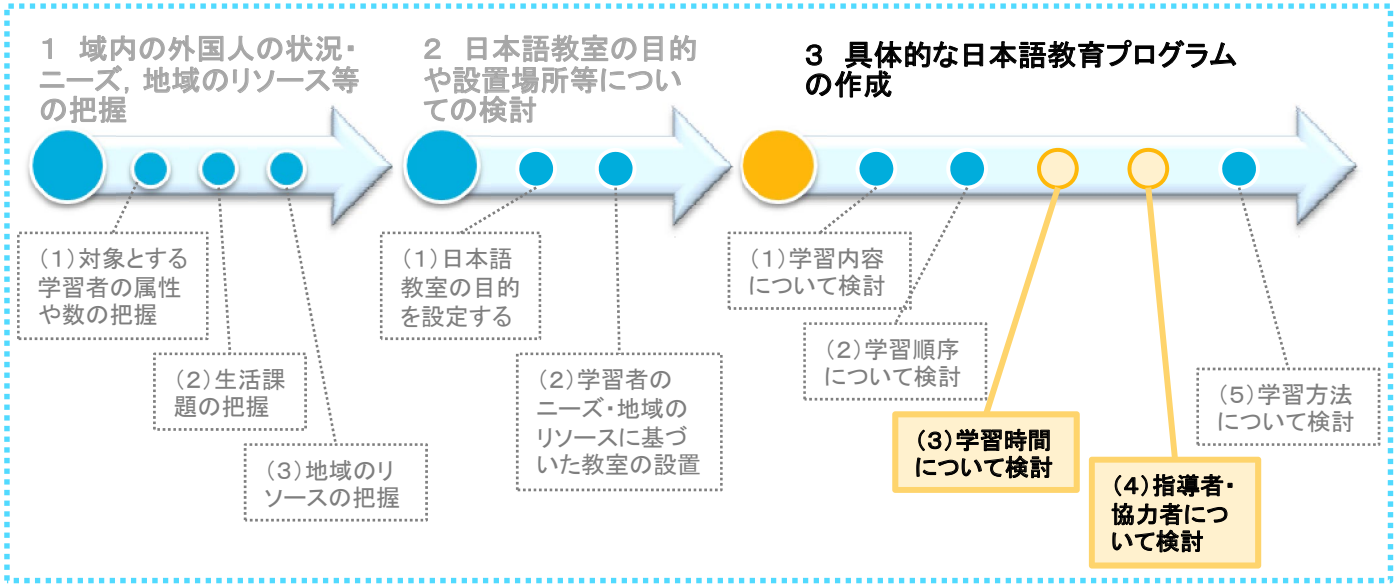
標準的なカリキュラム案における生活上の行為の事例	地域の実情・学習者の日本語のレベルに合わせて工夫する
Ⅷ　社会の一員となる(4．5単位) (35)地域社会に参加する 3501100　行事に参加する 3501050　自治会の会員になる	○地域の行事について情報を得る ○地域の自治会の申し込みを読む
Ⅷ　社会の一員となる(4．5単位) (34)住民としてのマナーを守る 3401080　居住地域のゴミ出しの方法について隣人に質問する 3402030　マナーについて人に相談する	○ゴミの分別について情報を集める ○隣人に分からないことを質問する ○あいさつの種類を知る
Ⅶ　人とかかわる(2．5単位) (31)　人と付き合う 3101060　相手に合わせたあいさつをする 3101130　人間関係のきっかけを作るあいさつをする	

(2)学習順序について検討

○学習者の生活課題・ニーズから学習順序を設定

○「1　域内の外国人の状況・ニーズ，地域のリソース等の把握」の「(2)生活課題の把握」の「切迫度の高いこと」，「できるようになりたいこと」から順に学習順序を設定する。

3　具体的な日本語教育プログラムの作成②



（3）学習時間について検討

○以下の表にあげる事項のほか，学習スタイル（目型，耳型），学習ストラテジーの傾向，目標設定等を踏まえ，学習に掛かる時間を設定する必要がある。

○学習時間について設定する際，個々の学習者により必要となる学習時間は異なるが，地域における日本語教室においてはより時間が掛かる学習者が教室活動から排除されないよう留意することが求められる。

（4）指導者・協力者について検討

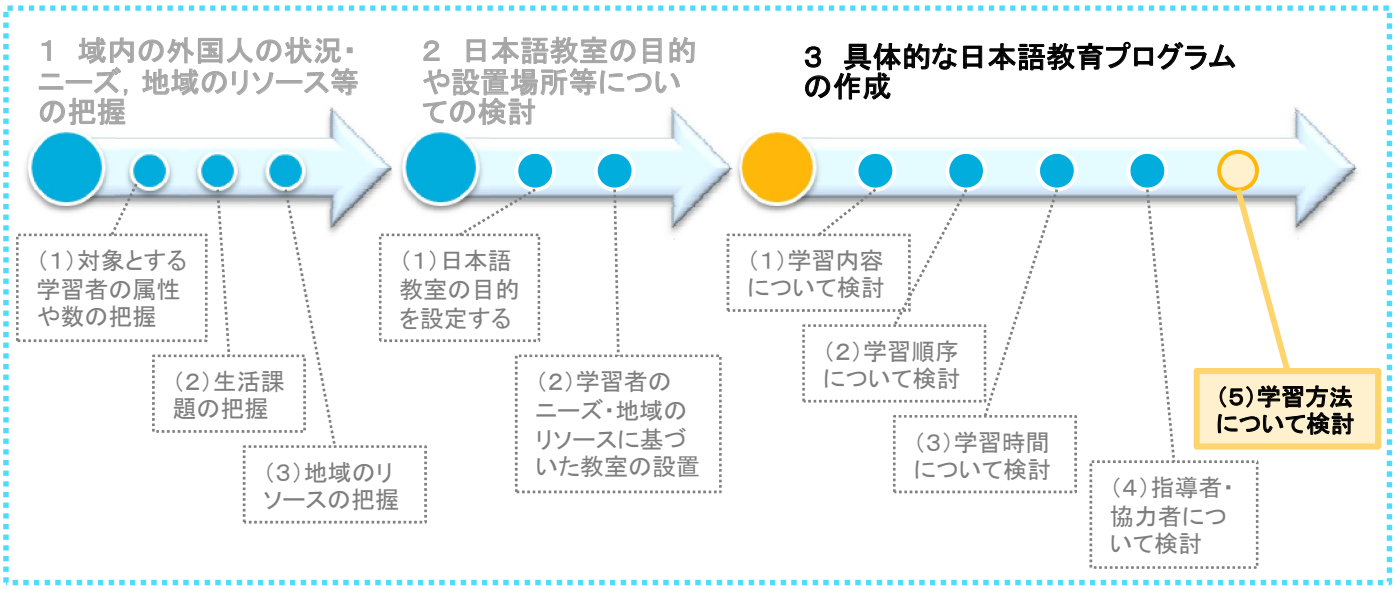
○以下の表に示す項目等に基づいて，協力者の協力体制について検討。

・学習時間を設定する際に考慮すべき要素について

考慮すべき要素	学習時間　短		学習時間　長
日本での生活経験	長い	⇔	短い
言語学習経験	長い	⇔	短い
日本語学習経験	多い	⇔	少ない
読み書きの必要性	あまり必要ではない	⇔	必要
自習時間	確保できる	⇔	確保できない
漢字圏・非漢字圏	漢字圏	⇔	非漢字圏

・学習者の状況と指導者・協力者について

学習者の状況	求められる協力者
日本での生活経験が少ない	指導者の他，日本での生活経験が長く，学習者と母語が同じ人が参加することが望ましい。
日本での生活経験はあるが，日本語学習経験が少ない	指導者の他，日本での生活経験が長く，学習者と母語が同じ人や地域住民が参加することが望ましい。
日本での生活経験もあり，生活経験も長い	指導者の他，地域住民が参加できるような体制を組み，対話・交流を中心とした教室活動を盛り込むことが望ましい。

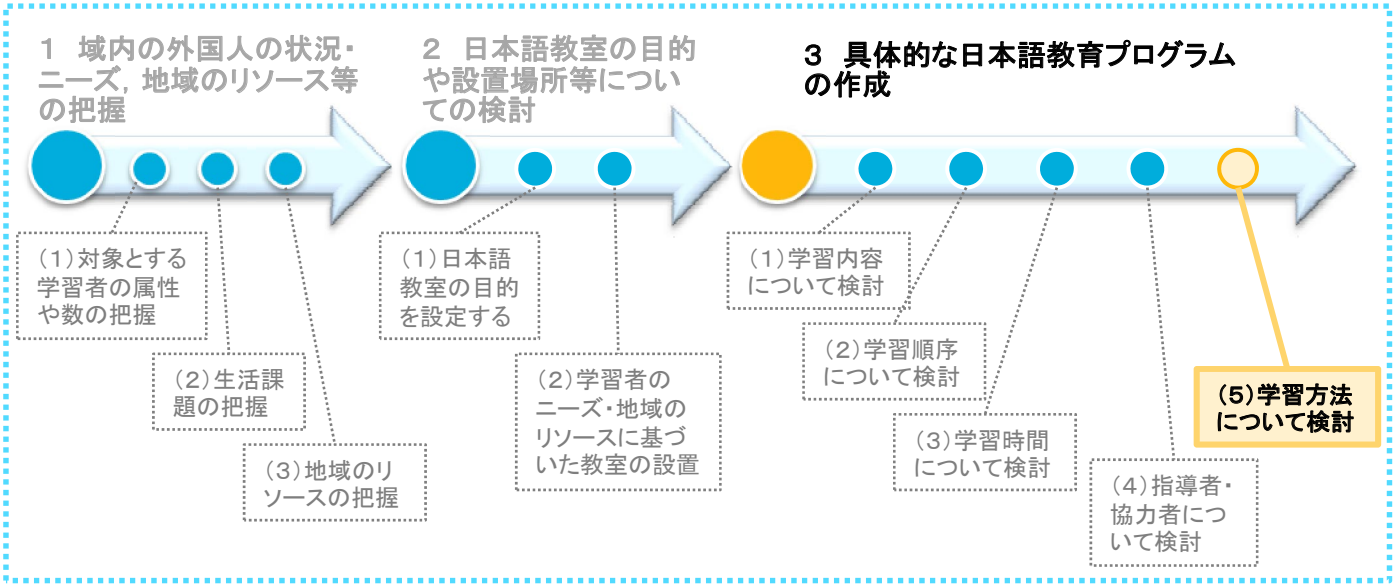


(5)活動方法について検討
①目標達成のための教室活動の方法

・教室活動の方法とその条件について

行動・体験中心の教室活動を進めるための条件	行動・体験中心の教室活動の内容	該当する生活上の行為の事例	教室活動の方法の例
関係機関の協力を得ることができる	・関係機関の協力のもと，生活上の行為が行われる場所を訪問したり，施設見学，シミュレーション等を行いながら日本語を学ぶ	4403030 利用方法を尋ねる（地域の公共施設） 4501100 手紙や葉書を書いて送る	・施設見学 ・シミュレーション
実体験を行うことができる	・生活上の行為を体験しながら日本語を学ぶ	0801050 デパート，スーパーマーケット，コンビニ，電器店，書店等で買い物をする 1004060 券売機を利用する	・実体験
協力者・ゲストの参加が得られる	・協力者・ゲストを招き，教室活動を行う ・フォトランゲージやランキング等により，広く対話・交流を中心とした活動を行う	0301090 流行性の病気についての情報を理解し，適切に対処する 3302080 支払方法を確認する（各種税金）	・フォトランゲージ ・ランキング等
視聴覚機器が利用できる	・ロールプレイにより学ぶほか，生活上の行為を見て学ぶ	（視聴覚機器による）	・ロールプレイ等

3　具体的な日本語教育プログラムの作成③



（5）活動方法について検討

②教材

○①の教室活動の方法で扱う生活上の行為を行う際に用いることのできる「多言語情報」，生活上の行為の場面を示した「写真」や「イラスト」，「やり取りの例」に含まれる表現等，生活上の行為を行う上で有効な情報が含まれるものを教材として活用することが重要である。

③評価について検討

○学習者のニーズに即した教室活動が展開できたかどうか，地域の実情に即した教室活動の展開ができたかどうか，対話による相互理解の促進が進んだかどうか，生活上の行為が行えるようになったかどうかという観点から評価を行い，その結果を基に具体的な日本語教育のプログラムの振り返りを行う。